

「このわたしを退けた」
サムエルの生涯Ⅳ
サムエル記第一 8章 1節～22節

はじめに

今朝は、「サムエルの生涯の」4回目です。今回のところでは、イスラエルの歴史に大きな転換期を迎えます。さばきつかさが治める時代から、王が治める時代への転換です。そのきっかけとなったのが、サムエルでしたが、彼はそれを望んでいたわけではありませんでした。

1 この息子たちは父の道を歩まず（3）。

さばきつかさの時代から王の時代への転換の原因は、サムエルの息子たちにありました。

（1）サムエルの息子ヨエルとアビヤ（1-3）。

サムエルは、年老いたとき、二人の息子をさばきつかさにしました。しかし、これは失敗でした。この二人の息子は、さばきつかさになりながら、父の道に歩まず、利得を追い求め、わいろをとり、さばきを曲げていたのです。

サムエルを育てたエリも、その息子たちが墮落していました。

しかし、サムエルのような立派な人の子たちがどうしてこんな者になってしまったのでしょうか。聖書は、それについては、何も語っていません。

適用：だだ、私たちが聖書から教えられることは、立派な信仰者の子が自動的に立派な信仰者になるのではないということです。

気をつけなくてはならないのは、立派な信仰者は、自分の信仰や教会や仕事のことには忙し過ぎて、子どものことに充分手が回らなくなる危険があることです。ですから、私がいつも言う優先順序に気を付けましょう。

1 神 2 家族 3 仕事（教会奉仕）

サムエルでさえ、出来なかったのだからと、安心したり、それを口実にしたりしないでください。祈ってください。家族の救いこそ、あなたに委ねられた一番の使命だと思い、祈り続けましょう。

（2）民は王を求める（5-6）。

サムエルの息子たちへの期待を裏切られた長老たちは、サムエルに王を立てるように求めました。

その動機は、「ほかのすべての国民のように」でした。長老たちの目は、自分たちを治める主にではなく、「ほかの国民」に向いていたのです。

適用：危機の時、神様に頼らず、この世的な、人間的なものに頼ろうとする誘惑がいつもあります。この時のイスラエルの長老たちもそうした。

2 民の声を聞き入れよ (7)。

これに対して、サムエルはどうしたでしょう。

(1) サムエルは気に入らず、主に祈った (6)。

この提案をサムエルは気に入りませんでした。それは、サムエルが年を取り過ぎていることと、息子たちの不適格を指摘され、サムエルの引退を求めたこと。そして、他国の例に倣いたいと言い出したことにあるでしょう。

そこで、サムエルは、主に祈りました。

(2) 神の答えと、王政の厳しさ (7-18)。

神様の答えは、「民の声を聞き入れよ」でした。サムエルを慰め、「それはあなたを退けたのではなく、彼らを治めているこのわたしを退けたのである」と言われました。

王を求めることは、神を退けることであるというのは、それまでは、人間の力が制限されていて、人々はあくまで、神様によって治められていました。しかし、神のいないこの世は、王を絶対的な、神のような存在にします。それは、神への信頼を薄くすることでした。

それでも、神様は、民の声を聞き入れよと言われます。そして、「彼らに厳しく警告し、彼らを治める王の権利を彼らに知らせよ」と言われました。

王政の厳しさは、徴兵、女性の徴用、畑の没収、収穫税など、厳しいものであり、民は「王の奴隷」となるようなものなのです。

3 民はあくまで王を求める (19-22)。

(1) 王の必要を強く求める(19-22)。

民は、サムエルの言うことを聞こうとせず、王を求めました。そして、王のさばきと戦争指揮に期待しました。

適用：民は、サムエルのことばを聞けなくなっていました。それだけ、サムエルの権威が落ちていたのでしょう。私たちも、自分の生活に気をつけましょう。あかしが出来ていないと、私たちのことばに人は、耳を傾けなくなります。

さがみのキリスト教会が、この地域で良いあかしを立てれば、人々は私たちのことばを聞くようになるでしょう。

(2) ひとりの王を立てよ(22)。

サムエルが人々のことばを主に伝えると、主は「彼らにひとりの王を立てよ」と言われました。そこから、サムエルの王捜しが始まることとなります。

結論

神様は、人々を救うために、先ず神の民をお選びになりました。そして人々は、神様を信頼し、従って行くことを学びました。しかし、その歴史は、神様に逆らうものでした。そして、今、ここでも、民は神様を退け、王を求めました。その直接の原因がサムエルの息子たちの墮落にあったとはいえ、神様はそれをお許しになりました。

けれども、イスラエルの王制は、長く続きませんでした。サウロ、ダビデ、ソロモンと続きますが、ソロモンの後、王国は分裂し、北イスラエルはアッシリヤに、南ユダはバビロニヤに滅ばされてしまいます。イエス様の時代にも王はいましたが、やがてローマに滅ぼされ、国を失い、流浪の民となります。

第二次世界大戦後に、イスラエルは国を建てますが、王はいません。

世界の歴史も、王制から共和制へと移行しています。今日、王政をしく国は数えるほどしかありません。しかも、王に権力は、ますます小さくなっています。形態的には、民主主義国家になりつつあります。

私たちは、その形態を認めつつ、本当に私たちを治めておられるのは、十字架で、罪の贖いをし、復活して、天の御座にお着きになったイエス様であるという信仰を与えられました。ですから、私たちは、この世の制度に従いつつも、一番は神様に信頼し、従って生きて行くのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」